言葉の魂に触れる、学びの旅へ。

独自の教育哲学で、「わかる喜び」と「できる自信」を育む。
わかるまで教え、できるまで見守る。

はじめに

こんにちは。学庵のHPに訪問していただいたことにまず感謝申し上げます。

さて…、兵庫県西宮市東山台に位置する個別指導塾「学庵」は、「わかるまで教え、できるまで見守る」という揺るぎない教育理念を掲げています。この理念は、単に知識を一方的に伝達するのではなく、生徒一人ひとりが自らの力で深い理解に到達し、自信を持って問題に取り組めるようになるまで、徹底的に寄り添い、支え続けるという学庵の姿勢を明確に示しています。まず初めにでは、学庵の塾長である中村義包が、なぜ「霞 慈 音」という名を借りて、その教育哲学がいかにして形成されたのかを詳述します。

霞 慈音という名の道標

ここでは、私達が学庵で英語の文法解説を行う際に、生徒にいろんな例え話を用いて解説する様子を“短編小説”の形式に装いを変えて、ホームページを見て下さっている方にご紹介したいと思います。なお、作中に「霞 慈音」（かすみ　じおん）と名乗る人物が登場します。…何だか変な名前と思われるかもしれません。…ですのでその名前が生まれたきっかけを詩にしてみました,。
私達講師が当塾に通う生徒を真の理解へと導くための、深い教育哲学が込められています。

令和に生きる若き者、
何がいったい真実か、
うわべの知識に惑(まど)わされ、
ホントの自分を見失い、
前が霞(かす)んで立ち止まる。

進むべき道に迷う君の目に、
直接見える救いの手。
確かにそれも優しさの
１つなのかも知れないね。

でも、
耳を澄(す)ましてき聴いてごらん。
チリンチリンと慈(いつく)しむ、
心の音色(ねいろ)、鈴の音。

見えては霞(かす)むこの先の
数え切れない分かれ道。
迷いそうになる君に、
響けよ届け。
見えずとも…

微(かす)かに聞こえる道しるべ。
真理に続くその道へ、
誘うためのこの鈴を、
導くためのこの鈴を、
君のために鳴らしたい。

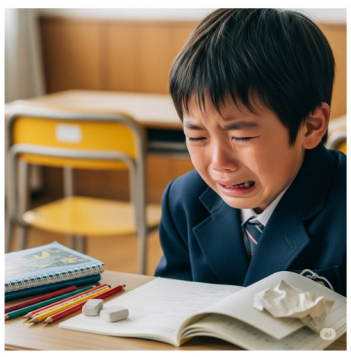
霞慈音(かすみじおん)…、
その名に我(われ)が込めた
思いと共に。

名前の解説

「霞（かすみ）」は、表面的な知識に翻弄され、本質が見えなくなる現代の学習の困難さを象徴します。情報過多の時代、生徒たちはしばしば五里霧中の状態に陥ります。
「慈音（じおん）」は、その霧の中で鳴り響く、慈しみに満ちた鈴の音。道しるべとなる心の音色です。単なる知識の伝達ではなく、生徒の内面に寄り添い、自ら真理を見出す手助けをする、共感に満ちた導きを表しています。

共感の教育、その原点

学庵の指導哲学の根底には、塾長である私自身の「黒歴史」とも呼べる、
学習における苦悩の経験があります。この個人的な「痛み」こそが、
生徒一人ひとりへの深い共感の源泉です。



不器用だった、かつての自分

子供の頃、丸暗記が極端に苦手で、「十分な納得感が得られないと、一歩も前に進めない不器用な生徒」でした。この経験が、画一的な暗記教育への疑問を形成しました。

「負けてスッキリ」の哲学

「負けて賢くなる喜び」と捉える姿勢。

これは、間違いを恐れず、対話を通じて成長することの尊さを生徒に伝えます。「間違う事を恥と思うな」というメッセージは、私のこの体験から生まれています。

なぜ、お子さんは伸び悩むのか？

『学庵』は、目先の点数を取り繕う対症療法を行いません。
23年間の実践が導き出した答えは、学習の**「根本治癒」**にあります。

『ガクアニズム』を支える四つの柱

『学庵』の全ての活動は、単なる指導方針ではなく、相互に連携する一つの哲学体系に基づいています。ここでは、その核心となる四つの信念をご紹介します。これらが、私たちが何者であるか、そして何を目指さないのかを定義しています。

診断の責務

「何を」間違えたかではなく「なぜ」間違えるのか。思考の癖や生活習慣まで分析し、学習の「根本治癒」を目指します。

職人の倫理

広告宣伝費等の「三大費用」を排し、指導の質と適正価格に集中。実直な「うどん屋」モデルを貫きます。

共有責任の契約

成果は塾・生徒・家庭の三者による共同作業です。家庭の積極的な関与と生徒本人の意欲を成功の条件とします

妥協なき真正性

美辞麗句よりも、時に厳しくとも率直な対話を重んじます。この姿勢が価値観を共有する家庭を引き寄せます。

診断プロセス：「間違いパターン」インタラクティブ分析

分析対象の「誤答」を選択してください：

- 事例：庵子ちゃんのケース
- 事例：学くんのケース

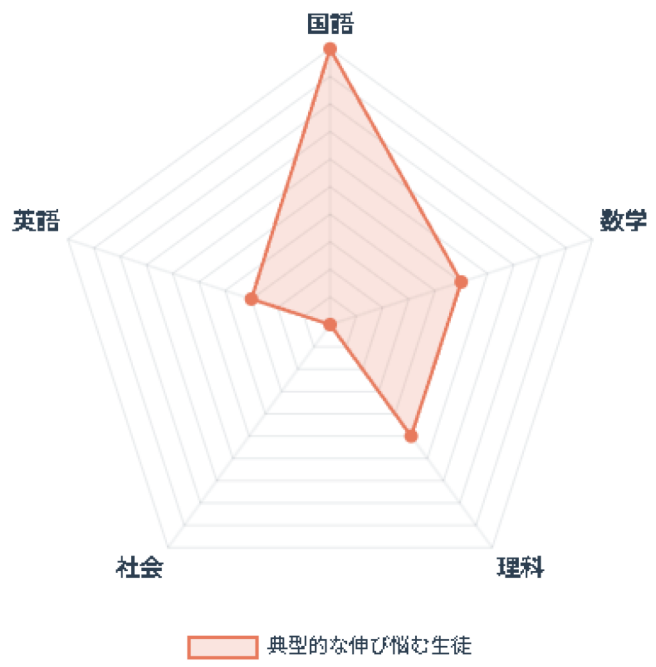
事例：学くんのケース

熟語の読み間違いや、一般常識の欠如。これらは単なる知識不足以上の問題を示唆していました。

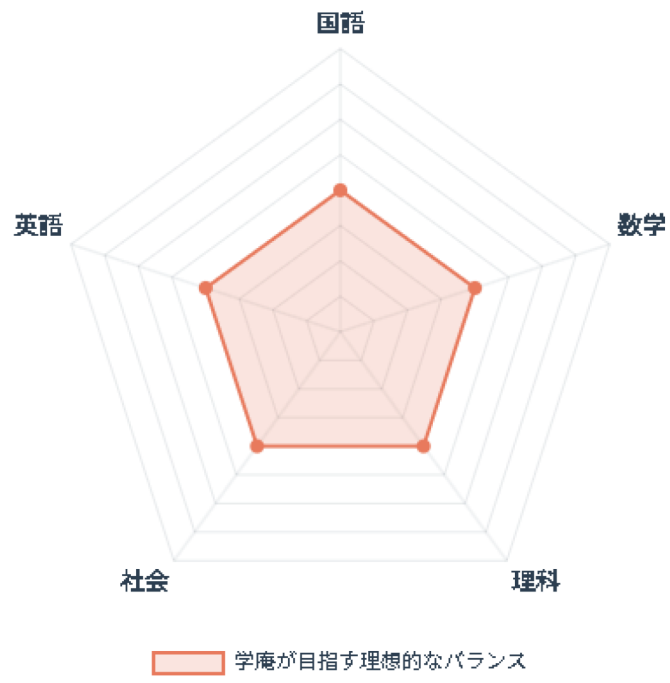
- ✓ **語彙力の欠如:** 熟語「女王（じょおう）」を誤読。彼の語彙の中にその言葉自体が存在しないことを示す。
- ✓ **学習姿勢の問題:** 「僕、その言葉知らんもん！」という返答は、新しい知識を吸収する姿勢そのものに課題があることを示唆。
- ✓ **結論:** 必要なのは反復練習だけでなく、言葉と背景概念を結びつける、より根本的な働きかけ。

理論フレームワーク：「大きな正五角形」理論

5教科は独立していません。中心の「論理的思考力」を核に全てが繋がり、国語力が数学の文章題を解く力に直結するのです。下のボタンで生徒像を切り替え、そのバランスの違いをご覧ください。



典型的な伸び悩む生徒　学庵が目指す理想的なバランス



典型的な伸び悩む生徒　学庵が目指す理想的なバランス

指導モデルの選択：診断に基づく「教育的処方」

『学庵』の指導モデルは料金プランではなく、診断結果に基づく「処方箋」です。以下の比較表は、なぜ特定の生徒に特定の指導法が最適なのか、その論理的な根拠を示しています。

項目	通常 1:2 指導 (標準処方)	完全 1:1 指導 (特別処方)
対象生徒像	ある程度の自律学習が可能で、苦手克服を目指す生徒。	基礎学力に深刻な課題を抱え、独力で演習を進められない生徒。
指導の力学	演習時間と解説時間をバランス良く配分。自律性と集中力を育成。	講師が100%集中。「微に入り細を穿つ」手厚い解説が可能。
核心的利点	学費と学習効果のバランスに優れた、費用対効果の高い技能育成。	根本的なつまずきを即時解消。学習効果を最大化する。
料金指数	1.0倍	1.6倍

『学庵』創世記：なぜ、この塾は生まれたのか

『学庵』の哲学は、机上の空論ではありません。それは創設者の人生経験、すなわち自らの苦悩、啓示、そして業界への幻滅から生まれた生きた信念体系です。この物語こそが、私たちの「何を」の背後にある「なぜ」に対する、究極の答えです。

小・中学校時代

原体験としての劣等感

表面的な暗記ではなく深い納得感を求めるがゆえの苦闘。「落ちこぼれ」という自己認識が、生徒への共感の源泉となる。

大学時代

啓示としての「あ、そうか！」

家庭教師との出会いを通じ、啓示的な理解の瞬間を体験。これが『学庵』が目指す核心的な教育体験となる。

社会人時代

倫理の礎としての幻滅

塾業界で目の当たりにした「利益優先体質」への深い疑念。これが「職人の倫理」を貫く道徳的な動機となる。

2001年

聖域創造の誓い

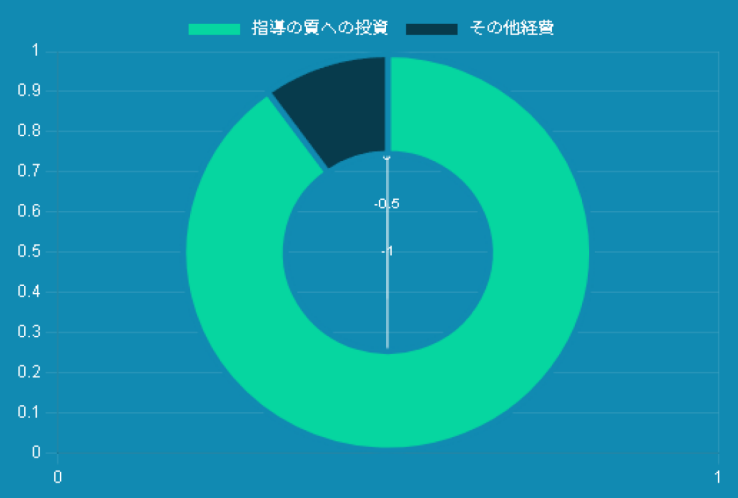
幻滅への反逆として「自分独自の理想的な個別指導塾」の設立を決意。『学庵』は失われた教育倫理を取り戻すための個人的な「聖戦」として始まる。

次のステップへ

『学庵』の哲学に共感いただけましたでしょうか。もし、お子様の「なぜ」を知りたい、根本的な解決を目指したいとお考えでしたら、ぜひ一度お話をお聞かせください。

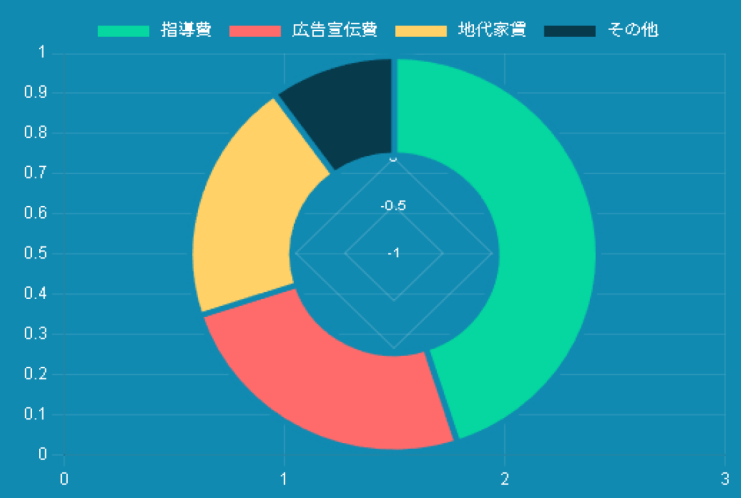
その授業料、何に使われていますか？

個別指導 学庵



学庵の授業料は、その大半が直接的な指導の質に投下されます。「うどん屋」モデルにより、本質的な価値を最大化しています。

一般的な大手チェーン塾 (類型)



大手塾では、授業料のかなりの部分が広告宣伝費や家賃といった間接費に充てられる傾向があります。

個別指導 学庵

データと哲学が明かす23年間の教育実践

診断フロー：「間違いパターン」分析

1. 生徒の誤答が発生
単なる計算ミスか、それとも…

↓

2. なぜ？ 根本原因の探求
多角的な視点から原因を深掘りする

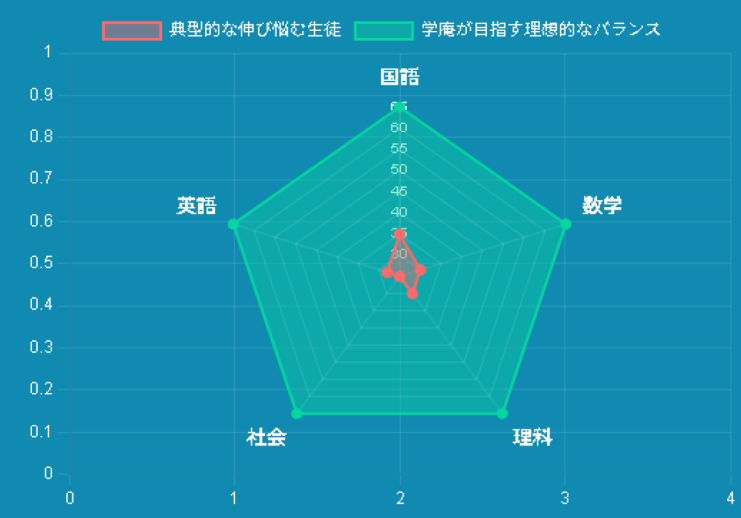
↓

知識・理解の不足　　思考・作業の癖　　生活・環境的要因

↓

3. 個別化された根本的指導
一人ひとりに最適化された「処方箋」を提供

全体像：「大きな正五角形」理論



5教科は独立していません。中心の「論理的思考力」を核に全てが繋がり、国語力が数学の文章題を解く力に直結するのです。

診断に基づく指導システム

学庵に画一的なコースはありません。診断結果に基づき、生徒一人ひとりのための最適な学習環境を「処方」します。それは時に、より手厚い1:1の指導体制をご提案することも含みます。

通常 1:2 指導
（標準処方）

- **対象：**ある程度の自律学習が可能で、苦手克服を目指す生徒。
- **力学：**演習時間と解説時間をバランス良く配分。自律性と集中力を養う。
- **利点：**学費と学習効果のバランスに優れる、費用対効果の高い技能育成。
- **料金指数：1.0倍**

完全 1:1 指導
（特別処方）

- **対象：**基礎学力に深刻な課題を抱え、独力で演習を進められない生徒。
- **力学：**講師が100%集中。「微に入り細を穿つ」手厚い解説が可能。
- **利点：**思考プロセスを徹底追跡し、根本的なつまずきを即時解消。学習効果を最大化する。
- **料金指数：1.6倍**